



ちい  
**小さな**  
 としよかん  
**図書館**

ジュリア・ウィラードソン

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、アメリカ合衆国での出来事です。

ジャンニーは本をとり、幸せそうにため息をつきました。この本はお気に入りです、すでに3度も読んでいました。ジャンニーは読書が大好きです！

「小さな図書館を作れると思う？」

ジャンニーはその日、お母さんとお父さんにたずねました。本を分かち合うことでほかの人の役に立ちたいと思ったのです。

「小さな図書館って何だい？」とお父さんが聞きました。

「本を入れた箱を外に置いておくの」と

ジャンニーは言いました。「ただで借りられるように。ほかの人が読めるように、本を置いていってもらえることのできるの。」

「それはすてきなアイデアね」とお母さんが言いました。

お父さんもうなずきました。「作るのを手伝おう。」

「ありがとう！」とジャンニーは言いました。「材料を買うお金を用意するために、お菓子を焼い

て売るのはどうかな。」ジャンニーと妹のカーリーは、手作りお菓子セールを知らせる看板を作って、近所のあちこちに置きました。お母さんとお父さんは、お菓子セールについてオンラインで人々に知らせました。ジャンニーはわくわくしました！

お菓子作りも楽しい時間でした。クッキー、さくさくのシリアルバー、そしてスノーボールケーキを作りました。

間もなく、手作りお菓子セールの日がやって来ました。ジャンニー、カーリー、そして友達のパラは、前庭にテーブルを置きました。近所のたくさんの人たちがお菓子を買ってくれ、さらにお金を寄付してくれた人たちもいました。ジャンニーはすべてのお金を特別なびんに入れました。

手作りお菓子セールの後、ジャンニーはもう一つのアイデアを思いつきました。お気に入りのお菓子を郡のフェアで開かれたコンテストに出したら、しょうを取りました！ その賞金も、小さな図書館のために、ほかのお金と一緒にびんに入れました。

図書館のためのお金を用意できたので、次はそこに置く本が必要です。ジャンニーは近所の家を回り、いらなくなった本を寄付してくれるようたのみました。何人かの友達も、ジャンニーに本を持って来てくれました。

ついに、小さな図書館を作る時が来ました。ジャンニーは自分がかせいだお金で材料を買いました。箱のデザインをかき、サイズをはかりました。お父さんが木を切るのを手伝ってくれ、ジャンニーは組み立てを手伝いました。

お母さんはひびわれやつぎ目をうめて、雨がふったときに水が入らないようにしてくれました。ジャンニーは、本を持っていったり分かち合ったりしていただきと書いた看板をかけるのを手伝いました。

そしてとうとう、ジャンニーと家族は、前庭の大きな木陰のある木の横に箱を出しました。お父さんが地面に柱を立て、みんなで箱を柱に取り付けました。小さな図書館の完成です！

お父さんが柱の周りに重い石を3つ置きました。「これなら風で飛ばされないよ」とお父さんは言いました。

「すごいわ！」とジャンニーは言いました。「これで本を入れられるね。」小さな図書館は、寄付してもらった本でいっぱいになりました。

それから、ジャンニーは毎日小さな図書館を見に行きました。人々が置いていってくれた本や持っていた本をかくにんするのがとても楽しみでした。ある日、小さな女の子がジャンニーのお気に入りの本の一つを選ぶのを見ました！ 小さな図書館で本を分かち合うことで近所の人たちの役に立つことができ、ジャンニーはとてもうれしく思いました。●